

No2462

東赤石山～西赤石山縦走

2015年5月9日(土)～10日(日)

参加者 右田(L)、岡本(記)

四国の山はあまり登っていないので是非とも行きたかった山行だ。しかし、天気ははっきりせず最後まで迷っていたが、日曜日が晴れ予報に変わったことで決行。土曜の午後には天気がある程度回復する見込みで、小雨の中右田さん宅を目差す。右田さん宅を午前6時半出発、明石海峡大橋を越え、徳島自動車道経由で登山口まで行く。四国は意外に近く、10時40分頃筏津登山口到着。誰かが「11時半になれば雨は止む。」と言うので早めの昼食をとり、雨が止んだところで出発する。

登山道は良く歩かれているようで歩き易い。標高差は900m程なので楽勝のはずである。しかし、再び小雨が降り出し、仕方なくゴアを着る。お酒も含め水だけで6L以上、計20kgの荷物は思った以上の負担になる。新緑と小鳥のさえずり、所々に見える綺麗な溪流が何となく慰めとなる。



(第一徒渉地点付近の沢)

歩き出して1時間半程して第一徒渉地点を越える。ここで一旦沢を外れるが、暫く行くと別の沢に入る。この辺りが第二徒渉地点で、そこから少し行くと樹林帯から抜ける。石ころでゴロゴロした道を暫く行くとアケボノツツジが咲いているなだらかな所に出て、その上には八巻山が見える。山全体が岩でゴロゴロしているが、中々良い面構えの山だ。と、少し向こうにトタンの小屋が見える。赤石山荘だ。

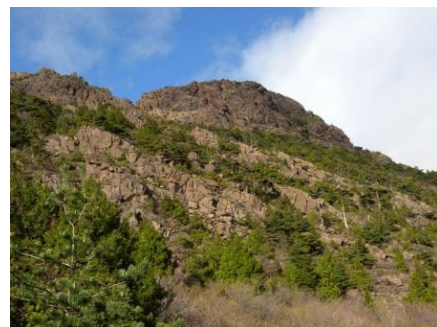


(赤石山荘)

部屋は6畳あまりある個室だ。しかし、床はでこぼこで、強く踏むと床が抜け落ちそう。天井には露止にビニールが張られ、壁板は雨と露のシミだらけで、板一枚で隔てられた隣の部屋からの声は筒抜けだ。今夜が最後で、その後この部屋を改装すると言っていた。一泊2千円の素泊まりだから文句は言えない。まあ、一杯飲むだけだからテントより広いし、夜はちゃんと電気もつく。

少し飲んでから外に出ると天気が回復していた。又、飲み直していると隣の管理人室が何やら賑やかだ。少し飲み過ぎの相棒が隣の部屋に入っていく。更に他のグループも入ってきて、管理人を含め9人で飲む。途中から管理人が歌詞集を出してきて皆で歌えと言う。音程の外れたハーモニカと酔っ払いで、歌か念仏か何か分からないような騒音が延々と続く。先に戻り、部屋で寝ていると意外に冷える。仕方なく、エアーマットを膨らまし、シュラフカバーをする。その内相棒は戻ってきたが、中々良い気分ようだ。広い部屋なのでそれぞれが適当に場所を取り寝る。

朝起きると快晴だ。早朝でもあり、空気は冷たく気持ち良い。少し霞みがあるが、中々の山行日和りだ。東赤石岳まで標高差150m程を一気に登る。頂上は遮るものの無い、360度大パノラマだ。霞の所為か、瀬戸内海は見えないが、石鎚山から笹ヶ峰へと続く四国山脈の主稜がよく見える。西の方にはこれから行く



(赤石山荘から八巻山)

八巻山の岩稜や、その向こうの西赤石山も綺麗だ。少し休んで八巻山へ向かう。

アップダウンの岩稜を行くが、滑りにくいしっかりした岩なのでそれほど危ないことはない。展望が良く、アルプスの岩稜の雰囲気らしきものも楽しめる。八巻山まで、直ぐに着くと思ったが意外に時間が掛かった。が、景色も良く、

適当に風もあり、暑くもなく、気分良く山頂に着く。少し休み写真を撮り出発するが、更に険しい岩稜が続く。岩稜を過ぎると樹林帯の中を暫くかき分けると、石室越に着く。ここは、八巻山岩稜を避け、赤石山荘経由で東赤石山へのルートの分岐だ。



(東赤石山山頂)



(東赤石山から八巻山方面)



(八巻山山頂)



(八巻山から石室への尾根ルート)

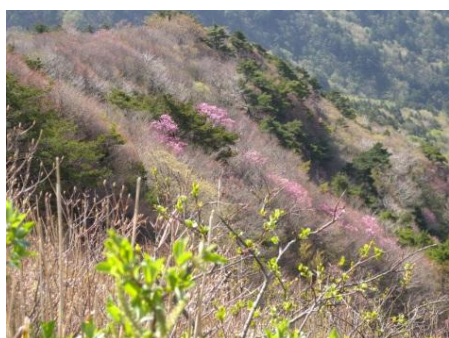


(前赤石山手前から西赤石山)

ここからは一般ルートになり、歩き易くなる。前赤石山のトラバースが最後の岩場でここを過ぎ少し登ると物住頭に出る。山頂から西赤石山までなだらかなスロープがよく見え、その斜面のあちこちにアケボノツツジが咲いている。広大な展望と、新緑と花も楽しめる中々のコースだ。最後の標高差150m程を登り切ると西赤石山山頂に出る。この山頂も展望が良い。やはり山は展望と天気次第だ。



(石室への尾根ルート)



(西赤石山手前のアケボノツツジ)

絶好のハイキング日和りと言うことらしい。しかし、富士山や関東方面に比べると、まだまだ落ち着いた雰囲気と言える。

銅山越に着く。ここは昔別子銅山の鉱石を人や牛馬を頼りに運んだ道筋の峠に当たるところだ。別子銅山からここまでが登りで、ここからが下りになる、いわばヤレヤレ峠みたいのところだ。しかし、昔の人はよくこんなところから新居浜まで鉱石を運んだものだと思う。



(銅山越)

峠から日浦登山口まで、なだらかに下りが続く。所々に鉱山跡や関連した部落とその施設跡が続く。ここが住友発祥の地かと改めて感慨深く感じる。

そんなことを思っているうちに日浦登山口に着く。ここから約1時間、延々と舗装された車道を車の止めてある筏津登山口まで歩く。銅山川の溪流や、藤の花などに少し癒やされながら歩くが、昔と違い、やはり1時間の車道歩きは応える。が、もう一度来てみたくなる中々良い山行であった。



(旧別子銅山遺跡案内)

<参考タイム>

9日 11:20筏津登山口→12:15尾根コース分岐 (10分休) →13:05第一徒渉地点 (10分休) →13:45第二徒渉地点→14:15 赤石小屋

10日 6:00赤石小屋→6:37東赤石山 (5分休) →7:10八巻山 (10分休) →8:08石室越→8:45物住頭→9:25西赤石山 (10分休) →10:35銅山越 (15分休) →11:13ダイヤモンド水→11:40日浦登山口→12:40筏津登山口